

## 道の駅「キララ多伎」設計者

田原 辰男さん



「明るい赤瓦がこの 三谷設計（大田市久手景観になじむ。使って 町）の田原辰男社長は良かったと自負している。約15年前に手掛けた自らの作品を振り返る。」

日差しを受けて輝く 田原社長は、旧多伎広い屋根一面の赤瓦 町の依頼を受けて約1

## 道の駅「キララ多伎」



印象的な洋風建築を飾る赤瓦が目を引くキララ多伎＝出雲市多伎町

久力も高く、波打つ形状の赤瓦が映えること、洋式建築への赤瓦の使用を思いついたという。

石州瓦業者に色合いが異なる8種類の赤瓦を特別に焼いてもらい、町の関係者と4種類を選び使用し、「キララ多伎」の色彩に変化のある赤瓦屋根が誕生した。

「町の建設基本計画がよくできていたのでもうまくできた。今も多くの利用者でにぎわい、赤瓦を使ったこの建物が愛されているのがうれしい」と田原さ

# 使って良かったと自負

が、背景の青い海に映える出雲市多伎町の道の駅「キララ多伎」。設計者で1級建築士の

年間かけて設計。町の建設基本計画での建築物の屋根は黒石を材にした屋根が一般的だったが、田原社長は、

バルト海沿岸風の建物が黒石にこだわって、いなかったことから、「赤瓦は地元の優れた製品。今後も使っていきたい」と語る。